

令和8年7月24日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属三原小学校・中学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属三原 小学校・中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kyoikukateitokureishiteiR6

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属三原 小学校・中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/tokureikotorikumir7	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/tokureikotorikumir7

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

人とかかわりの中でレジリエンスの育成をめざして、幼小中一貫教育カリキュラムを実践し、子供に成長が見られるなど成果を上げている。

今年度の取組では「教師のマインドセット」に着目し共通のマインドセットで各学級実態に合わせた手立てを実施したという成果が上がっている。

また、資質・能力の評価方法についてルーブリックによる評価を実施するだけでなく、評価方法の改善についても取り組んでおり、公立学校の教育の充実に寄与するものである。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

上記に記載したとおり、幼稚園と小学校、小学校と中学校という学校種の接続部分で子供たちの成長や様子を見取によって成果が見られている。

課題としては、「レジリエンス」は、一部の教科の指導や特定の授業だけで育成されるものではなく、教科、「光輝」を含めた日常的な教師による指導、支援、関わり方等が重要であるため、手立てと成果が明確には結びつきにくい点である。

また、全ての幼児、児童、生徒が一貫教育ではないため、幼小中一貫教育カリキュラムの有効性とは必ずしもいえないことや、幼小中一貫教育を実施できる公立学校が多くないため、研究成果の広がりでの課題がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

レジリエンスの育成は現在の日本の学校での大きな課題であり、研究内容については意義が大いにある。一方で研究成果を汎用性のあるものにするためには、幼小中一貫教育という枠組みではなく、幼稚園、小学校及び中学校の各学校段階での「レジリエンス」育成を目指した日常的な子供への支援、指導事例を紹介するなど具体的な提案や、指導モデルの提供など汎用性のある成果の公表が必要である。